

ベトナム経済の成長予測と主要産業の展望

2025年1月14日 作成

カテゴリ ベトナム市場経済 経済動向

ベトナム経済の成長予測と主要産業の展望

Oxford Economics の最新報告によれば、ベトナム経済は今後数年間で ASEAN-6（インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ベトナム）中でも高い成長率を遂げると予測されている。具体的には、2024 年の GDP 成長率は 6.7%、2025 年は 6.5%に達する見込みであり、これは製造業の堅実な基盤と内需の回復によるものである。

主な成長要因は加工品の輸出である。現在、ベトナムは半導体製造のバリューチェーンにおいて重要な中心地としての地位を確立しており、特に組み立て、パッケージング、テスト（APT）の分野での存在感が強い。インテルはベトナムに世界最大の APT 施設を設置しており、またアムコール・テクノロジーが北部ビンフック省に建設中の 16 億ドル規模のチップ工場も 2025 年から稼働予定であり、経済成長と輸出促進の機会の driving force となる。

一方で、グローバルなチップ需要は供給網の混乱による在庫過剰のため減速する見込みだが、それでも半導体産業はベトナム経済に貢献し続ける。アジアではチップ輸出指数が 2024 年初頭から低下しており、自動車やスマートフォン、コンピュータ分野での需要減少が影響を及ぼしている。しかし、AI 関連分野への投資増加により、2025 年には製造業が新たな発展を遂げると期待されている。

さらに、半導体以外にも機械類や電気設備、繊維製品、農産物などの主要輸出品も安定した成長を維持すると予測されている。企業は関税リスクへの対応として輸出を強化し、一時的な電子製品需要の減少を補う動きが見られる。アメリカの緩和的財政政策もベトナムにとって有利に働くと考えられている。外国直接投資(FDI) については、引き続き安定した成長が期待されているが、そのペースはやや鈍化する可能性がある。

FDI 企業は現在、国全体の輸出額の 75%を占めており、トランプ政権により中国製品に高関税が課される可能性もあり、その結果ベトナムの輸出が後押しされる見込みだ。一方で、2025 年初頭にはアメリカによる関税政策の不確実性から FDI 流入が減速する可能性も指摘されている。

短期的には国内消費と企業活動が安定して回復しており、2025 年には個人消費がコロナ前の水準に近づく見込みだ。特に FDI 分野での賃金上昇が消費を支える要因となる。また、観光業も 2025 年には重要な経済推進力となると予測されている。2023 年には観光業が GDP の 6.6%を占め、日本に次ぐアジア第 2 位となった。総じて、ベトナム経済は多くのポジティブな要素によって支えられながら、今後も成長を続けることが期待されている。



ONE-VALUE 株式会社 (<https://onevalue.jp/>)
東京都江東区亀戸 2-44-5 TOWA イマス亀戸ビル 6階
For more information: contact@onevalue.jp
Hotline: 080-1980-9493

以上